

評価に係るQ & A（各委員からの質問事項等に係る法人及び県の回答）

○令和5年度業務実績に係る意見等

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 質の高い医療の提供

(1) 政策医療、高度・専門医療の確実な提供

質問事項等 1

【佐藤（裕）委員】

（がんセンター）

トモセラピーに関して目標値の設定が低かったのはなぜなのか。

<回答>（法人）

- ・令和5年2月から寡分割照射（従来の照射法と比べて1回当たりの線量を増やし、回数を減らす方法）を開始したことによって、照射回数（件数）が半減することが見込まれたため。

質問事項等 2

【正宗委員】

（精神医療センター）

イ 児童思春期医療の提供については、常勤医師の減少などにより、達成率は80%台にとどまる。施設の老朽化や病棟構造が稼働率低下の一因としているが、意味がよくわからない。

ロ この減少分が、当院以外の受入れにより補完されているのか、そもそも対象患者数が減少しているかについては検討の余地がある。

<回答>（法人）

- イ
- ・常勤医師の配置は令和元年度は4人、令和2年度は3人、令和3年度以降は2人で対応しているが、患者ニーズの高まりから目標値はほぼ維持することとしている。
 - ・また、児童・思春期病棟は、平成30年度に予定していた新病院での稼働に先駆けて、暫定措置として既存の成人病棟を成人ユニットと児童ユニットに分割し、最低限の環境整備で運用を開始している。そのため、成人と児童の出入り口が共通であること、また、児童病棟へ行くためには成人病棟を通らなければならないことに加えて、児童病棟は、男女別のユニットに分かれていないことにより、性的逸脱問題が発生するなどの医療安全上の問題を抱えたままになっている。
 - ・その上、建物の老朽化に起因する、ドアのゆがみや湿気問題、薄壁による騒音問題などの問題が継続している。活動量の多い児童患者が療養するには良好な環境と言いつく、入院前の病棟見学後、入院を辞退する事例も数例あったことから、このように表記している。
- ロ
- ・対象患者においても、新型コロナウイルス感染症流行期においては、学校生活での対人関係の接触頻度減少等による一時的なストレスの緩和などにより、患者数が全体的に減少傾向にあった。
 - ・しかし、令和5年5月の新型コロナウイルス5類移行後は、再び学校生活が始まったことで、受診を必要とする対象患者も増加してきている。

質問事項等 3

【正宗委員】

(がんセンター)

緩和ケアチームによる対応件数も前年より更に増加している。なお、目標値が 350 件と低く設定されていることには留意が必要と思われる。

<回答> (法人)

- ・令和 5 年度の年度計画は、第 4 期中期計画の目標値どおりである。中期計画は令和元年から令和 3 年度の平均で設定している。

(3) 地域医療への貢献

質問事項等 4

【正宗委員】

(精神医療センター)

精神保健相談への医師派遣、会議への職員派遣については、具体的な実績を次回以降、数字として提示していただくと良いと思われる。

<回答> (法人)

- ・行政が実施している精神保健相談への医師派遣は、8 市町村へ計 7 8 回行っている。
- ・自立・支援協議会などの地域精神保健福祉活動に関係する会議への職員派遣は 1 3 件行っている。

質問事項等 5

【正宗委員】

(がんセンター)

次回からは率のみならず、紹介、逆紹介の実数を提示していただくと良いと思われる。

<回答> (法人)

- ・紹介患者の実数：3,493 人
- ・逆紹介患者の実数：2,324 人

質問事項等 6

【正宗委員】

(がんセンター)

地元のコミュニティ FM で、がん情報に関するラジオ番組を放送しているが、その効果は不明である。

<回答> (法人)

- ・地域への広報効果を測る指標として、視聴回数を確認したところ、令和 5 年度は YouTube で 1,553 回視聴されている (過去の放送を YouTube で公開しており、いつでも視聴できるようにしている。)

2 安全・安心な医療の提供

質問事項等 7

【正宗委員】

(精神医療センター、がんセンター、本部)

次回以降は、職員の研修受講率の提示をお願いしたい。

<回答> (法人)

【精神】

・医療安全研修会：37.8%
(実施した研修会のうち診療報酬算定要件の研修受講率 91.0%)

・感染対策研修会：58.3%
(実施した研修会のうち診療報酬算定要件の研修受講率 82.9%)

【がん】

・医療安全研修会：77.0%
・感染対策研修会：66.0%

【本部管理分】

・情報セキュリティ研修：対象者 36 人中 36 人参加、受講率 100%
※新任職員研修と合わせて実施

(参考)

	対象者	受講率
キャリアデザイン研修	18 人中 11 人参加	61.0%
管理監督者研修	17 人中 17 人参加	95.0%
副主任看護師研修	17 人中 17 人参加	100%
副看護師長研修	39 人中 38 人参加	97.0%
看護部長・副部長研修	7 人中 7 人参加	100%
事務職員研修 (医事)	45 人中 41 人参加	91.0%
事務職員研修 (RPA 勉強会)	47 人中 41 人参加	89.0%
事務職員研修 (コミュニケーション研修)	15 人中 14 人参加	93.0%
ハラスメント研修	738 人中 686 人参加	93.0%

質問事項等 8

【正宗委員】

(がんセンター)

院内感染対策研修会の開催件数が、令和 4 年度以降、急減していることについての説明がなく、その要因について判断をしかねる。

<回答> (法人)

- ・令和 3 年度までは新型コロナウイルスの影響で院内各部署で少数個別の研修を行っていた。
- ・令和 4 年度からは、新型コロナウイルスも落ち着きを見せてきたため、全体研修会を行っている。参加人数は全体研修会の方が多い。

3 患者や家族の視点に立った医療の提供

質問事項等 9

【正宗委員】

(精神医療センター)

栄養指導件数の目標値が、令和4年実績に比べて低く設定されており、その達成をもって計画が順調とは断言しにくい。

<回答> (法人)

- ・令和5年度の年度計画は、第4期中期計画の目標値どおりである。中期計画は令和元年から令和3年度の平均で設定している。また、指導件数は、入院・外来ともに毎年度着実な増加を示しており、今後とも注力していくこととしている。

質問事項等 10

【正宗委員】

(がんセンター)

セカンドオピニオンについて、当院で実施したものと、当院の患者さんが他院でのセカンドオピニオンを希望された件数を分けて提示していただくと良い。

<回答> (法人)

- ・当院で実施した件数：52件
- ・他院へ紹介した件数：24件（診療情報提供書Ⅱ）

質問事項等 11

【正宗委員】

(精神医療センター、がんセンター)

患者満足度調査の結果を院内掲示のみで各職員が認識しているかが不明。

<回答> (法人)

【精神】

- ・患者満足度調査実施後も調達結果を、毎月実施している「みなさまの声委員会」で共有し、さらに、院内各部署に配布し、全職員で共有している。また、院内掲示板にも掲示している。

【がん】

- ・病院幹部及び各部署へ調査結果を供覧した上で院内掲示を実施している。

質問事項等 12

【正宗委員】

(がんセンター)

接遇研修に関する研修会の参加状況、職員の参加率も提示いただきたい。

<回答> (法人)

- ・新規採用職員を対象とした接遇研修：対象者36人中36人参加、受講率100%

4 人材の確保と育成

質問事項等 13

【正宗委員】

(がんセンター)

東北大学専門研修プログラムと、より密接に連携し、同プログラムの専攻医を配置してもらうなどの取組が必要と思われる。専攻医の診療科別の数字を次回は提示していただきたい。

<回答> (法人)

- ・専攻医の診療科別人数は次のとおり。

頭頸部外科：4人

婦人科：2人

呼吸器内科：2人

質問事項等 14

【正宗委員】

(本部)

採用数が増加しているのはわかるが、同時に離職者数の提示をしていただかないと、単なる離職者の補填なのか、業務内容改善のための採用なのか、判断が困難である。

<回答> (法人)

	令和5年度医師採用数	令和5年度医師退職者数
精神医療センター	8人	6人
がんセンター	17人	24人

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

2 収益確保の取組

質問事項等 15

【正宗委員】

(精神医療センター)

入院から外来への診療シフトが想定されるが、この減少分が、当院以外の受入れにより補完されているのか、国の地域移行・地域定着によりそもそもの対象患者数が減少しているかについては検討の余地がある。

<回答> (法人)

- ・退院患者の地域定着や治療継続に向けて、当院外来はもとより、他院との連携により、医療の継続性は図られている。
- ・対象患者数について、当院においては、救急急性期治療にシフトしてきていることもあり、救急急性期患者に減少は見られないが、地域包括ケアシステムの活用により、慢性期の入院患者は減少していくと考えている。

質問事項等 16

【正宗委員】

(がんセンター)

新規入院患者数の増加にもかかわらず延べ患者数は減少している。今後、大幅な患者増は期待できないと思われ、病床数減など抜本的な対策が必要と思われる。

<回答> (法人)

- ・病床の運用効率化を図るため、令和6年4月から50床を休床している。

3 経費削減への取組

質問事項等 17

【正宗委員】

(精神医療センター)

採用薬品数を削減したことは評価できるが、後発品への移行の取組は改善の余地がある。

<回答> (法人)

- ・年2回の「薬事委員会」において、後発薬品への切り替えに関する審議の場を設けている。
- ・ここ数年は、後発薬品メーカーの不祥事による出荷調整により、先発品へ戻さざるを得ない状況があった。
- ・加えてコロナ感染症の流行による需要の増加や、海外情勢の悪化に伴う薬品不足が継続しており、各医薬品卸業者は納入実績のある病院へ優先的に納入している状況である。
- ・そのため、後発品へ切り替えることは、薬品の安定供給ができなくなるおそれがある。
- ・したがって、現時点では医薬品業界全体の動向を注視しながら、今後導入すべき後発薬品の関連情報を収集している段階である。

質問事項等 18

【正宗委員】

(がんセンター)

研究研修費がコロナ禍前より 1 割増になっていることについては、より詳細な検討が必要である。

<回答> (法人)

- ・研究研修費の区分の中で、「受託研究関係費」の支出が 10,757 千円増加しており、これは、研究費として受け入れた収益について、研究終了に伴い返還した分である。

質問事項等 19

【正宗委員】

(がんセンター)

がんセンターの後発品使用品目数について、そもそもの目標が低く設定されているため、目標達成の評価は困難

<回答> (法人)

- ・後発薬品メーカーの不祥事に伴う製造中止、流通規制が行われていることを考慮した目標設定をしている。

質問事項等 20

【正宗委員】

(がんセンター)

エコーなどの検査機器は各科管理ではなく、中央管理されているという理解でよろしいか。

<回答> (法人)

- ・内視鏡・超音波管理部会員である臨床検査技師が中心となって、ほぼ中央管理している。手術室などは業務の連携上、臨床工学技士 (ME) が一部のエコーのみ管理している。

第9 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置

2 就労環境の整備

質問事項等 21

【正宗委員】

(精神医療センター、がんセンター)

医師の働き方改革への対応に関する記載がほとんどない。

<回答> (法人)

- ・ 勤怠管理システムを導入し勤務時間を管理している。現在兼業の実績時間の申告の仕組みを導入するため改修中
- ・ 以前より医師の時間外勤務時間はA水準内で推移している。
- ・ 宿日直の許可は取得済み。
- ・ さらに、がんセンターにおいては、医師の負担軽減のため、タスクシフトを進めている。